勞働は商品に非らず（二）

米國　アール、エム、マックイヴァ
法學士　丸岡重堯譯

勞働者が制度を攻撃する理由は制度が勞働をして其生産能率に應じて雇用され使用し盡され追ひ使はれ監視せられ或は掠奪せられる一手段たらしむるからであり又夫は衣類の生産をなす勞働者の身体よりも生産された衣類そのものに價値を置き人格よりも利潤を尊重するからである。色々な改善があるにも拘らず勞働の商品的取扱は今尚餘りに明白なる事實である。實茲に此問題の中心がある。勞働は商品として他の單純なる商品の價格が變動するに從つて他の商品同樣賣買せらるべきであらうか。假令夫が舊い譬に言ふ如く―人の生命―賣買であらうとも、或は[illegible]反して勞働は産業に於ける有効なる要素さなり勞働者は市民さなり産業界に於ける只單純なる奴隷であつてはならないのであらうか吾等は勞働の商品的地位に代はるべきものゝ存在を知らなければならぬ。

然し和解仲裁の單純なる計畫も利益配當の皮想的工夫も所謂温情主義も決して此大なる而も益々増大する勞資間の對立を根治しないであらう。從來産業界に於ては私的公的強制的注意的たるを問はず和解仲裁の諸計畫の上に多くの工夫が凝された。例へば加奈太の「レミユウ・アクト」の如き形式のものもある。然し此等は一般に主唱者の希望を無にした。此等不十分なる防波堤に依つては爭闘の流は餘り影響を蒙らず餘り妨げられなかつた。此等諸計畫の中最も望みある而も政府に依つて支持せられたる強制仲裁制裁判制度は平時の手段さしては現今一般に非難せられてゐるが和解の或る形式はヨリ大なる然し極めて少數者にのみ歡迎を受けてゐるに過ぎない。さ云ふのは此等諸計畫の主旨さするところは爭闘を無くすさ云ふことに在るから。之を改善することに非ず。故に彼等は總べて現在の秩序を固執し未だ存在したことのない産業的正義の法典を主張する。彼等の成功は勞働者のヨリ智識のある部分が獲得せんさ努心しつゝある新秩序の創造を妨害するであらう。之に反し[illegible]あるさいふ最良の證據である既に起つた爭議を解決する只一時的計畫でなく經營者さ勞働者さを絶へず一所に會せしめ合議せしむる手段を執つた和解的計畫は一般に成績がよかつたさいふことは極めて教訓的なことである。

最も成功せる和解的計畫の例之はニユウヨーク市の婦人衣類製造工業に於ける顯著なる實例の如きは一般に廣範なる組織的計畫の一種であるが尚此等の計畫の失敗に終つたこさもあ之上に示せる實例に於けるが如く又ランカシヤ綿工業に於ける有名なるブルウクランヅ契約の場合の如くなるは資本家が自發的に讓渡せんさするよりもヨリ大なる産業支配權を勞働者が要求したからである

之は總て産業が何れの方向に進まなければならぬかを指示する、其他に尚必要なものもあるであらうが次のことは明白なことである。單に爭議の起つて仕舞つた時のみならず爭議の起る凡ての事柄に關して經驗的に經營者さ勞働者さを一つの會議のテーブルに集會せしめ合議せしめない計畫には少くとも現在の勞働者の氣質では全然永久的成功の望みのないといふことである此計畫の程度に達しない計畫は凡て勞働を尚一個の商品たる地位に置殘す―只凡ての本來の商品さ異なる所は勞働はかくして與へられる性質を現はし絶へざる反抗たへざる勞働不安さに依つて商品さするには餘りに應しくないことを立證する點である。勞働の賣手たる賃銀勞働者に取りては勞働は常に個性―生命さは生活狀態―を意味してゐた而して又さうあらねばならない。之に反し勞働の買手たる雇主に取つては勞働は競爭制度の壓迫と利潤の追求の下に於ては只一種の生産原料たるを意味するに過ぎない賃銀勞働者が爲し得べき勢力を生ずるや否や彼等自身を以前の如き見解から認めらるゝことに對し反抗するに到るは至極尤もなことであつた而して勞働者の勢力智力の増進するに從つて益々彼等が是に反抗するは之亦自然である現在の不幸の根元まで深く探究して行くさ商品さしての勞働さ個性さしての勞働さの區別が無くなる所がある。問題を單純なる階級的利己心以上に引き擧げ之を社會的幸福のヨリ廣大なる基礎の上に置くさいふ事は個性さしての勞働の要求するところであり此要求に依つてこそ問題解決が求められ發見せられなければならぬ。（終り）

電業勞働者よ團結せよ

中之島支部　YN生

不利益なる勞働條件の下に勞働者を働かす事、それが資本家に利益である以上は彼等の爲す事に依つて勞働者の幸福は到底得られない。

勞働者の解放、それはざうしても勞働者自身の行動でなくては駄目である。

試みに我等の生活を見よ、如何に最低限に考ふるも、資本家の爲す處に依つて（現在我等を縛れる勞働條件は）迚も人間さしての生活は出來ないではないか。

然れども悲しい哉一日働かねば一日食ふ事の出來ない我等は背に腹は換へられないので眼を瞑いで饑しい腹を抱へ乍らもこうした條件の下に働かねばならない。

そこへ同じ境遇にある我等の仲間同志が激しい勞働供給の競爭を起し哀れな勞働條件を底知れず下げて行くのである。

此處が資本家の附込み所であり、勞働者の弱點にして、こうした境遇にある間は勞働者の幸福は到底望まれない事である。

然らば如何せば勞働者はこの境遇から脱却する事が出來るか？それには先づ團結せなければならない。

我等勞働者は一人では如何に資本家に生活の悲境を叫び自己當然の權利を強張した處で、それは資本家にこそ死活の問題であれ資本家には火事場に小便で少しも應へないのみならず、彼等は却つて、こうした者を大根切りに馘首してしまふのである。

考へて此所に到らば我等の結論は自ずと湧出するではないか、それは勞働者は何よりも先づ第一に團結せなければならないんだと。而して勞働者の共通利益を奪還すると共にこれが擁護をなさねばならぬさいふ事に。

重ねて曰ふ我等勞働者の解放は先づ勞働者の團結如何に存するのだ。

文明の原動力を掌る電業勞働者よ、何を躊躇しておるのだ來りて速かに我等と伴に手を握り我等勞働者の解放の爲めに、新社會建設の爲めに努力せん。

起て革新の健兒!!!

杉谷七太郎

社會は何故斯くも偏破なんだらう。見よ資本家を!!彼等は我等を無視し、吾等の權利を蹂躙し、俺達を冷遇し、苛酷なる壓迫の下に呻吟せしめて居る。

如何に利巳主義者の専制時代さは云へご余りに現社會は逆特せるに非らざるか

吾等は已の職を確認するさ共に一身を勞働運動に捧げ眞實を愛し、虚僞を憎み、人格を尊び、自由を求むるが故に不合理なる現社會を打破し、熱血を博愛の爲に注ぎ、紅涙を實躍躬行の上に濺き以つて社會の衆生を融化し而して人生の眞理を明にして天與自然の光に浴する理想社會の建設を目的さして活動して居るのである。然るに世には今が今まで階級意識に目覺よさ人にも數〜自身は慷慨激越徒に世を駡り俗を笑するものが一朝或る地位を得んか忽ち心機一變し大言壯語眞面目に天下のぜントルマン吾一人さいふが如き顔をして居る奴が居るが、その奴は上級者の前にでも出たものなら其顔色のみを伺ひ米搗きバッタの如くに頭をぺコ〳〵下げ隨從的態度さ來て居る、全く唖然たらざるを得ないではないか俺逹は斯の如く人非人的行動に出ずる樣な奴は宜敷く罪る可しだ。而して後資本家に當らねば到底社會の改造は絶望である、慾は人生の生存の機能である、然れ共友を賣り不正の奴さ妥協して小慾を得むに客ならざるより清き大自然の與へたる平等の大慾を得るに努めねばならぬのだ。彼等は全く自分で自分さへ處決することの出來ない哀れな奴であるのだ。人が盜人を進めて盜人する樣な馬鹿野郎だ、馬さ鹿さを間違へる奴に正義の道を解する道理がない。俺逹は何處迄も徹頭徹尾斯の如き奴を倒し正義の公道を歩む正義の士である。

俺逹は自由である、自由なる吾等は人の甘言に惑わされない上級者即ち主任さか課長さかの重役なご、ォェライ人間の内現代思想を解し全從業員の意志を尊重し事を處決する者が幾人かある?、彼等の内には品性の下劣な甚だ數に至つては部下の職工を喰物にし自己の地位を利用し自巳の懐を肥さん事に汲々たる人があるではないか、諸君彼等の意中を如何に解し居る哉。

見よ勞働者を。俺逹は眞に我國の精華である其精華たるべき俺逹を何故侮辱し壓迫し幸福を與へないのか。

俺逹は國民さしての義務は喜んで果して居る、資本家の如く黄色に眩惑して節を賣る奴さは趣きを異にして居る。

彼等の如く名利に迷て骨肉を爭ひ懐を肥さんさして至誠國家的觀念に乏しい現代思想を解せざる政治家を選出するに至りては平ゝ淡々さして何の波爛も起さず默過し得べきや俺逹は肉身をして常に精神の向ふ所に活動し黒風白雨の後晴天を見、明月を見るべきなり、意氣あり筋肉あるものゝ手に唖して立つべき秋だ!!起てよ革新の健兒よ!!革新的氣魂の向ふ處情實なく、先輩なく、猛進すべしだ。諸君成功は成功の日に成功したものに非ず、目的は目的の逹したる時に成りたるものにあらず、目的の一部、成功の一段より積み積んで其極に逹するものなることを忘れるな、此日此時を閑却せず彼等に向つて常に反抗の意を示せ、奮へ兒弟!!起てよ姉妹よ!!正義は最後の勝利であるさ云ふ事を忘れてはならんぞ。

支部旗調製寄附芳名

（第三回報告）

工友支部　金五拾圓

伊奈自治　副島寅一　佐野米吉　謙田好一　三崎正一　石井彌太郎

池内清三郎　西野彦太郎　西井佐久造　土井久吉　大野義雄　田中義實　高橋義章　蔦井吾二郎

金五圓　森組代表　竹田卯三郎
金參圓
同
金貳圓五拾錢
同　同　同　同　同　同　同　同　同　同
金貳圓
同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同

山中　松池　吹野　和喰　甲賀　坂越　桐原　三島　森川　出水　越智　水口　徳田　坂巻　川上　木村　武田　磯竹　松岡　中村　細川　増田　馬場　大野　藤田　高田　中尾　中本　松山　島寅　杉野　松岡　棚橋　犬伏　奥山　長井　金尾　北中　尾木　正木　和田　藤原　西井

計金壹百貳拾七圓也

累計金四百參拾六圓七拾錢

出版小僧より

[illegible]